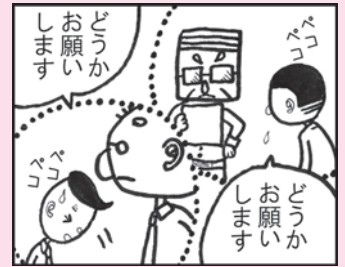




作・榊形 浩人
絵・にのみや なつみ



竹の子川柳会

あさおきてきらきらしてるみんなのめ
 やすみのひいことあるよたのしみだ
 小一 隆 希
 おにごっこおにやくをしたたのしいな
 小一 悠 夏
 パンをやくこげた香りがおいしそう
 小二 みるく
 つらい時はげまし合って元気だす
 小三 心 春
 ふくはんの役目をはたす登下校
 小四 翔 太
 登休みげんきに遊ぶ友だちと
 小四 太 清
 一年生心も体もキラキラだ
 小四 茉 秀
 僕たちに元気をくれるお弁当
 中一 清 也
 たくさん応援の声元気出る
 中二 海 斗
 大丈夫友にはバレるから元気
 中三 ななみ
 約束とゆびきりをする小さい子
 高二 ちひろ
 高二 瑠 依

ひよし川柳会

ゆつくりとせよとは言うがお茶も出ず
 遅いなあゆつくりさんがご先導
 爽快に青空泳ぐ鯉のぼり
 ウォーキング快風受けて息が合う
 早起き爺わくわく愉快農作業
 新人のトップ当選した快拳
 1丁の座卓に乗れぬアナログ派
 ふる里はいいな両手に星座降る
 やりきって座して結果を待つ余裕
 鬼嫁から王座奪還できるかな
 稲苗が来て庭が一気に活気づき
 季節の苗あなたの元へスタンバイ
 兵頭 好子
 川添 忠昭
 宇都宮 忍
 熊本 忠貞
 宮川 柳酔
 若宮 賢敬
 大崎 五葉
 山本 雅之
 伊勢本 恵
 中城 英雄
 水野すみこ

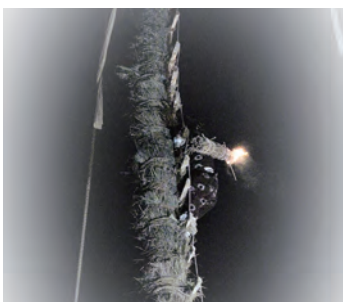
鬼北の足跡をたどる



山の信仰の痕跡を探す

南予地域近辺で現代に伝わる民俗事例に目をやると、山の信仰、修験の要素をもつものがみられます。例えば、「花取り踊り・太刀踊り」。花取り、花踊りなどとも呼ばれ、高知県を中心に愛媛県の山間部、徳島県の一部地域など四国西南部に集中しています。踊り手一同が太刀や長刀、鎌などを手に取り合って踊る集団舞踊で、鬼北町父野川にも「節安花とび踊り」がありますね。南予地域の花取り踊りの由来には、室町時代後期戦国時代の土佐、長宗我部元親との戦いなどになぞらえて語られるものが多いですが、元は念仏系の踊りで、基盤には念仏芸能とそれを担った修験山伏の活動があるのではないかと考えられています。

そして、もう一つ八幡浜市に伝わる「川名津の柱松神事(柱松登り)」。今年初めて見学することができました。毎年4月第3土曜日・日曜日に川名津天満神社の春の例大祭で執り行われます。夕方から神楽が奉納され、日をまたいだ25時30分頃がクライマックス。松明を背負った大蛮(鬼)が約20メートルの柱松の頂上に登りお祓いをするのです。四国地方では特異なお祭りです。その起源は江戸時代に起こった火災の厄火祓いと言われていますが、一説では元々修験道儀礼であったものが民間信仰化したと考えられています。これの原型ともいえる祭礼が修験道文化の色濃く残る福岡県でも行われています。



▲川名津の柱松神事